

インターコム操作のスマート化もできる

Step : **3**

このように「RC」シリーズは、スタイルの違いが際立ったリモコンだ。それだけに通話スタイルの違いや、インターコムの使い方に応じてチョイスしたい。

大きなジョグダイヤルが、高い操作性を発揮するセナのインターコム。この優れたインターフェースに加えて、セナではさらにワイヤレスリモコンを用意している。これまでも、10Uシリーズの同梱品でもあるハンドルバーリモコンやリストバンドリモコンが用意されていたが、新たに3モデルがラインナップに追加された。

一方「RC1」は「ライドコネクテッド」専用という異色の存在。インターコムではなくスマートフォンのペ어링する形で、同アプリのマイク&スピーカボタンを手元で操作できる。

ネットワークや使い方に 応じて選ぶりモコン



コンパクトにウエアに
収納できる

RC1 RC3 RC4

ハンドルバーにリモコンを取り付けるスペースがないのであればRC3がベストチョイス。付属のクリップでバットとウエアにはさんでおけるほか、平らな形状なのでどこにでも貼り付けて使うことができる。独特のボタンレイアウトが、慣れると見なくても触れるだけ操作ができるようになる



RC1

スマホアプリRideConnected専用リモコンで、スマホにペ어링して使う。マイクやスピーカボタンのオンオフ、アナウンスの呼び出しができる

価格：近日中
サイズ：縦36mm×横36mm×厚み10.3mm
重量：9.5g
対応モデル：スマートフォン (iOS, Android)



ライドコネクテッドをリモート操作
3シリーズ、5シリーズで使える!

RC1 RC3 RC4

RideConnectedはリモコンRC1なしでも使えるけれどマイクボタンのオンオフを多用する通話スタイルだけに、ハンドルから手を離さずに操作できるRC1なら会話がしやすくなる。コイン大の本体はどこにでも貼り付けられるため、親指、人差し指で操作しやすい場所に取り付けよう!



5シリーズ 3シリーズ



10Cでカメラ撮影も
行える

RC1 RC3 RC4

カメラ撮影ができるインターコム10Cを使っているならRC4をぜひ活用したい。10Cのカメラボタンは録画開始もしくはシャッターを切るために操作すると画角がズレてしまうことがある。RC4ならリモコン側で録画&撮影操作ができるため、こうしたブレを軽減する効果が得られる



RC4

ハンドルバーにクランプして使う。RC3の3ボタンに加えマルチファンクションボタンを装備し、10Cのカメラボタンや20Sのアンビエントボタン操作に対応

価格：近日中
サイズ：縦76.5mm×横39mm×高さ15.5mm
重量：28g
対応モデル：10シリーズ、20S



リモコンは目立たない
場所に設置できる

RC1 RC3 RC4

ハンドルから手を離さずことなくインターコムを操作できるRC4。スリムなフォルムで、グリップに取り付けてもあまり邪魔にならない。また、バーハンドルのバイクであればハンドルバーのどこにでも取り付けることができる。クランプ式なのでバイクから離れる際には取り外せる点も安心だ

ネットワーク使いこなし術

Step : **2**

利用シーンに応じて 通話スタイルを使いこなす

せっかくな通話スタイルが選べても、それを使いこなせなければ宝の持ち腐れ。「マルチウェイインターコム」「グループインターコム」「インターネット」「メッシュネットワーク」と、それぞれのメリットを生かして、インターコムを使いこなそう。

基本はやはりマルチウェイインターコムで、インターコムだけで接続ができるためとてもシンプル。タンデムや2〜3台でのツーリングならこれで十分会話が楽しめる。人数が増えてくるようであればグループインターコムを活用しよう。また、メンバーが頻繁に変わるようであれば、スマホアプリで管理する方が簡単だ。さらに30Kが登場すれば、10人を超えるようなマストツーリングにも対応できる。

こうした人数に対して通話距離を求めるなら「インターネット」経由のアプリ「ライドコネクテッド」が最適。ネット経由であれば日本中、さらには世界中の相手と会話することができる。また、3や5シリーズのような、通話距離や同時通話人数が少ないモデルでも、アプリを利用すればその制限を考えなくていいことになる。



5~8人でグループ移動

対応機種：20S

人数が増えてくるとペ어링や接続が煩わしくなってくる。そんなときに便利なのはスマホアプリ「SENA Utility」を使ったグループインターコム。スマホの画面を見ながらメンバー全員の登録ができるうえに、接続はスマホのボタンをタップするだけで、簡単にグループ通話ができる



2~4人でツーリング

対応機種：3シリーズ、5シリーズ、10シリーズ

タンデムや少人数のツーリングであれば、インターコム同士を無線で直接つなぐ、2/3マルチウェイ接続が手軽で便利。この人数であればペ어링やインターコム通話の接続も難しくない。ベーシックモデルから20Sのようなハイエンドモデルまで、幅広く使える通話スタイルだ

※3シリーズは同時会話2人のみ、5シリーズは同時会話2人のみで相手を切り替えて自分と相手3人、10シリーズは、同時会話2人から4人、20Sは、同時会話2人から8人



インターネットで遠方同士で会話を楽しむ

対応機種：3シリーズ、5シリーズ、10シリーズ、20S

メンバーが離れてバラバラに走るときに使えるのが「Ride Connected」によるインターネット接続。ツーリングの集合場所までや解散後、さらにはクルマや自宅からといったように、さまざまなシチュエーションで通話に参加可能。スマホが通信圏内であればどこでも使える通話スタイル



メッシュネットワークで団体移動もラクラク

対応機種：30K

10人を超えるような大勢のマストツーリングともなると、従来のインターコムでは対応できなかった。しかし新型インターコム30Kの「パブリックモード」を使えば、人数無制限で接続できる。「セナメッシュインターコム」によって、途中で誰かが抜けても会話が途切れない